記者発表資料

令和３年３月１９日
東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

第５回 成瀬ダムモニタリング委員会を開催しました。

成瀬ダム工事事務所では、ダム建設工事中の環境保全措置等を適切に実施していくため、「成瀬ダムモニタリング委員会」（委員長：松冨英夫 秋田大学名誉教授）の指導・助言をいただきながら、工事中の環境モニタリングを行っています。

今回の委員会では、令和２年度のモニタリング調査結果と令和３年度のモニタリング調査計画について審議し、了承されました。

【開催概要】

■名　　称：成瀬ダムモニタリング委員会

■開催日時：令和３年３月１７日（水）１３：３０～１６：００

■場　　所：ホテルメトロポリタン秋田　３階　ジュエルＢ

■次　　第：別紙のとおり

■審議結果：別紙のとおり

〈発表記者会〉
秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社（大曲支局、湯沢支局）
日刊秋田建設工業新聞、建設新聞社秋田支局

【問合せ先】
国土交通省　東北地方整備局　成瀬ダム工事事務所
〒019-0801　秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字宮田９７－１
電話番号　０１８２－２３－８４５０（代表）
副　所　長　田川（たがわ）　和義（かずよし）　（内線　２０４）
調査設計課長　小笠原（おがさわら）　由次（よしじ）　（内線　３５１）

第５回 成瀬ダムモニタリング委員会

令和３年 ３月 １７日(水)
ホテルメトロポリタン秋田
３Ｆジュエル B　13:30～16:00

次　第

○ 開　　会

○ 挨　　拶　　成瀬ダム工事事務所長
　　松冨委員長

○ 議　　事

１．第４回委員会でのご意見に対する対応

２．令和２年度のモニタリング調査結果

３．生息環境整備の検討

４．令和３年度のモニタリング調査計画

５．その他

○ 閉　　会

成瀬ダムモニタリング委員会　委員名簿			
専　門	氏　　名	所　　属	役　職
水工学	(委員長) 松冨　英夫	秋田大学	名誉教授
底生動物	青谷　晃吉	環境省　希少野生動植物種保存推進員	会員
哺乳類・鳥類、両生類・爬虫類	小笠原　暠	秋田大学	名誉教授
植物	沖田　貞敏	秋田県自然史研究会	会長
陸上昆虫類	佐々木　明夫	日本鱗翅学会	会員
魚類	杉山　秀樹	NPO法人秋田水生生物保全協会	理事長
水環境	野池　達也	東北大学	名誉教授

敬称略

第５回 成瀬ダムモニタリング委員会の審議結果（要旨）

１．令和２年度のモニタリング調査結果について

・令和２年度のモニタリング調査結果について審議した。

①水質調査　（別紙-1参照）

＜調査概要＞

・平成４年度から調査を実施している。

・調査項目は、一般項目（水温、濁度）、生活環境項目（pH、BOD、SSなど８項目）、富栄養化項目（アンモニウム態窒素、硝酸態窒素など７項目）、健康項目（カドミウム、シアンなど２４項目）の調査を実施している。

＜調査結果＞

・令和２年度の調査結果は、例年同様、概ね環境基準値内であった。

【審議結果】

・成瀬ダム建設工事に伴う影響はほとんど無いと考えられる。

・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。

②クマゲラ調査　（別紙-2参照）

＜調査概要＞

・平成５年度からクマゲラの生息状況の調査と生息していた場合に生息範囲を確認する調査を実施している。

＜調査結果＞

・令和２年度の調査結果は、新たに複数箇所でクマゲラのものと推察される古い痕跡（巣穴等）を確認したが、個体の確認はなかった。

【審議結果】

・クマゲラのものと推察される古い痕跡は、ダム建設事業地内外で複数確認しており、生息している可能性はあるが、クマゲラを直接確認できていない。

・ダム建設事業地は、そのうちの一部であり、影響はないと考えられる。

・生息状況を把握するため、今後も調査を実施する。

③－１植物モニタリング調査（Ｒ１移植）　（別紙-3参照）

＜調査概要＞

・令和元年度にダム建設事業地内に生育する重要種のテイネニガクサ、エゾスズラン、オニノヤガラ、アリドオシランの4種を移植し、その生育状況の調査を実施している。

＜調査結果＞

・令和２年度の調査結果は、アリドオシランの生育を確認したが、残る３種の生育は確認されなかった。

【審議結果】

・アリドオシランの移植後の生育状況は概ね良好であると考えられる。

・オニノヤガラは地上部が出現しない年があるため、令和３年度も調査を継続する。

・テイネニガクサは令和２年度に場所を変えて移植しているため、生育状況を令和３年度に確認した上で、残る個体を移植する。

・エゾスズランは建設事業地内で新たに自生が確認された場合は移植する。

③－２植物モニタリング調査（Ｒ２移植）　（別紙-3参照）

＜調査概要＞

・令和２年度はダム建設事業地内に生育する重要種のエゾヒメクラマゴケ、タテヤマウツボグサ、テイネニガクサ、シロヨメナ、ヤマスカシユリ、ナベクラザゼンソウの６種を移植している。

【審議結果】

・令和３年度は移植個体の生育状況を調査する。

④希少猛禽類調査　（別紙-4参照）

＜調査概要＞

・平成８年度から調査を開始し、平成１０年度に「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」を設立し、鳥類の専門家の指導を得ながら調査を実施している。

【審議結果】

・イヌワシ・クマタカ調査委員会で審議したため、当委員会では結果報告のみ。

⑤湖岸植生調査　（別紙-4参照）

＜調査概要＞

・湛水及びダム運用に伴う湖岸植生の変化を把握するため、初回調査として令和２年度に調査を実施している。

＜調査結果＞

・サーチャージ水位～常時満水位のブナ自然林では、トチノキやヤマグワ、落葉広葉樹林二次林では、ホオノキやヒメアオキ、針葉樹植林ではスギやサワグルミ、草地環境ではヨモギやアキタブキ等が優占していた。

【審議結果】

・湛水に伴う植生の変化を把握するため、今後も調査を実施する。

⑥魚類調査　（別紙-5参照）

＜調査概要＞

・平成７年度より調査を実施している。

・平成２６年度からは事業による影響を定量的に把握するため、調査対象魚種を６種として、同一箇所、同一手法で年３回（春季、夏季、秋季）調査を実施している。

＜調査結果＞

・田子内地区で６種、手倉地区で４種、草の台地区で３種が確認された。

【審議結果】

・調査対象魚種に変化はなかったが、確認個体数の変動があった。

・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。

⑦産卵場調査　（別紙-5参照）

＜調査概要＞

・令和２年度は産卵場の状況を把握するため、ダム下流（サクラマス（ヤマメ））とダム上流（アメマス類）を対象として調査を実施している。

＜調査結果＞

・既往調査と比べ産卵床の確認状況に変化はあるが、産卵場の産卵環境を確認した。

【審議結果】

・サクラマス（ヤマメ）とアメマス類の産卵環境は維持されていると考えられる。

・ダム運用前後の産卵場の状況を把握するため、今後も調査を実施する。

⑧大気環境調査（粉じん、騒音、振動）（別紙-6参照）

＜調査概要＞

・工事が最盛期となる１０月に、粉じん（降下ばいじん量）、騒音、振動の調査を実施している。

＜調査結果＞

・粉じん（降下ばいじん量）、騒音、振動の観測値は本体着工前と同程度であった。

【審議結果】

・成瀬ダム建設工事に伴う影響はほとんど無いと考えられる。

・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。

２．生息環境整備の検討

＜検討概要＞

・保全対象種のヒメアカネ、ヒメシジミ、ヒメシロチョウ、ゲンゴロウの生息環境を整備するため、湿地・池沼環境及び草地環境の整備面積及び内容を検討している。

＜検討結果＞

・湿地・池沼環境及び草地環境は、複数年かけて整備し、段階に応じて出現する生物の生息・生育状況をモニタリングする計画とする。

・整備にあたっては、在来種による環境の創出や自然の営力による再生・復元を目指す計画とする。

【審議結果】

・周辺生息地や先例地の調査を実施し、事例収集を行い、整備面積及び内容の検討を行う。

３．令和３年度のモニタリング調査計画

＜計画概要＞

・令和３年度の調査項目は、定期水質調査、クマゲラ調査、植物モニタリング調査、希少猛禽類調査、魚類調査、産卵場調査、大気環境調査（粉じん、騒音、振動）を継続する。

【審議結果】

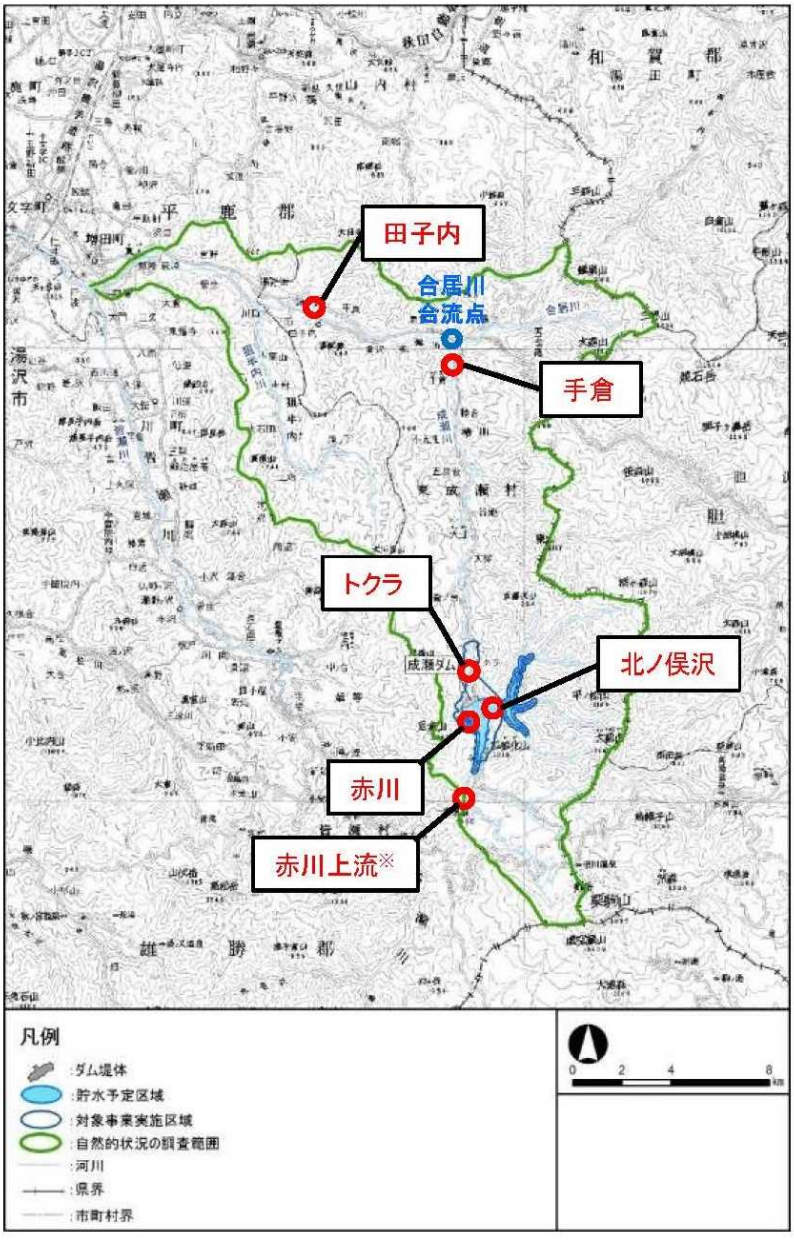
・令和３年度のモニタリング調査計画について了承された。

以　上

別紙-1

①水質調査　参考資料

項目	令和 2 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査日
定期水質調査	流入河川 ：北ノ俣沢、赤川、赤川上流 下流河川 ：トクラ、手倉、田子内 （計 6 地点）	流量 一般項目（水温、濁度） 生活環境項目 （pH、BOD、COD、DO、SS 等） 富栄養化項目 （ｱﾝﾓﾆｳﾑ態窒素、硝酸態窒素等）	月 1 回 赤川、北ノ俣沢 ：4 月～11 月 赤川上流：5 月～11 月
		健康項目（ｶﾄﾞﾐｳﾑ、全ｼｱﾝ、鉛等）	年 2 回（5 月、10 月）



※赤川上流は、H30 年 9 月から実施

水質調査地点　位置図

別紙-2

②クマゲラ調査　参考資料

令和 2 年度調査内容		
調査地点	調査項目	調査時期
事業区域周辺の 3 地区	・ラインセンサス法 ・呼び込み法 ・地区センサス法	秋季 ・9 月～10 月






令和 2 年度調査に確認したクマゲラの可能性のある古い痕跡

別紙-3

③－１植物モニタリング調査（Ｒ１移植）　参考資料



アリドオシランの生育状況（R2.8.7）

③－２植物モニタリング調査（Ｒ２移植）　参考資料



エゾヒメクラマゴケの移植状況（R2.10.9）



タテヤマウツボグサの移植状況（R2.8.6）



テイネニガクサの移植状況（R2.8.28）



シロヨメナの移植状況（R2.10.9）



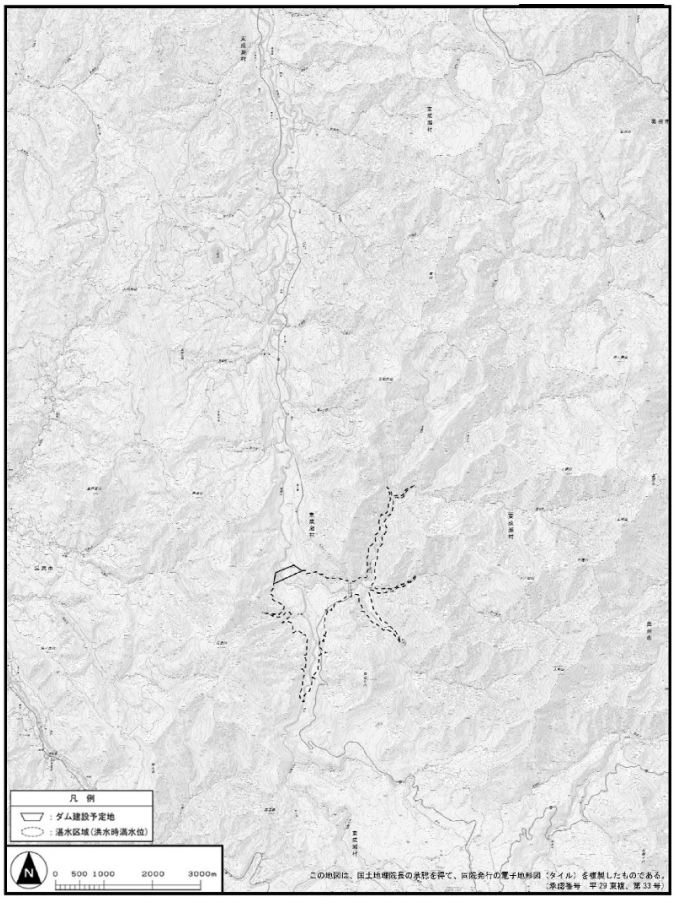
ヤマスカシユリの移植状況（R2.7.3）



ナベクラザゼンソウの移植状況（R2.6.5）

別紙-4

④希少猛禽類調査　参考資料



希少猛禽類　調査範囲



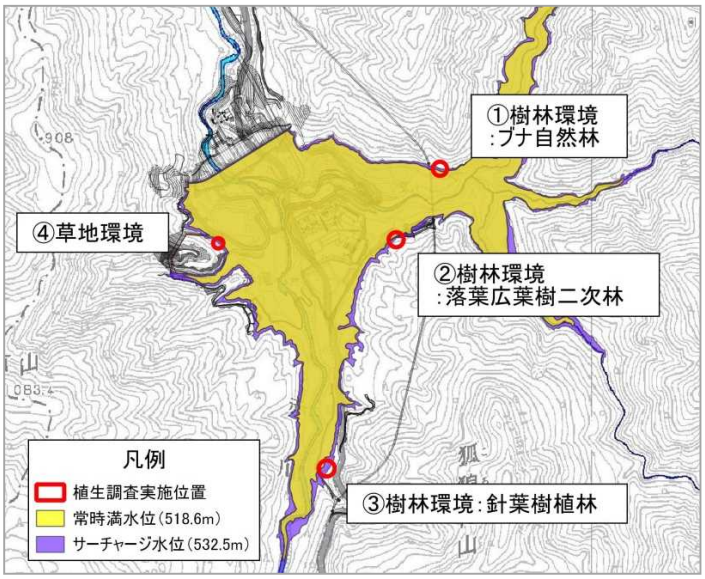
クマタカの巣の状況（R2.7.21）



ハイタカの巣の状況（R2.6.15）

⑤湖岸植生調査　参考資料

令和 2 年度調査内容		
調査地点	調査項目	調査時期
樹林環境（3 地点） 草地環境（1 地点）	・ベルトトランセクト調査 ・毎木調査	秋季（10 月）



湖岸植生調査　位置図

別紙-5

⑥魚類調査　参考資料

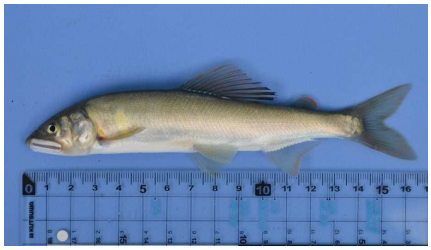
調査項目	令和 2 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
魚類調査	・田子内地区 ・手倉地区 ・草の台地区	採捕調査 ・定置網 ・投網	春季（6 月上旬） 夏季（8 月下旬） 秋季（10 月上旬）



エゾウグイ



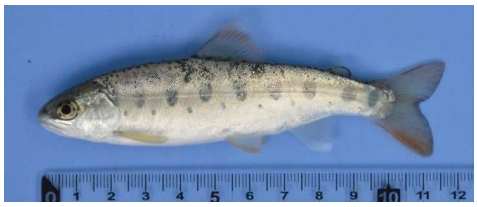
ウグイ



アユ



ニッコウイワナ



サクラマス（ヤマメ）



カジカ

調査対象魚種

⑦産卵場調査　参考資料

調査項目	令和 2 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
産卵場調査	・サクラマス（ヤマメ）4 地点 ・アメマス類 11 地点	現地踏査	秋季（10 月）



ダム下流の産卵場調査地点
（サクラマス（ヤマメ））



ダム上流の産卵場調査地点
（アメマス類）

別紙-6

⑧大気環境調査（粉じん、騒音、振動）　参考資料

調査項目	令和 2 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
粉じん	桧山台地区	降下ばいじん量	10 月～11 月
騒音	草の台地区	騒音レベル	10 月上旬
振動	草の台地区	振動レベル	10 月上旬



粉じん調査の実施状況



騒音、振動調査の実施状況